



9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6

705
06013
1



萬延九年申酉月於江廣同吳國巡丁人使
水印 仰白丁時

公事樣印鑄以印年下之年

洪大老 干仔持於江廣 沪奉年考
印存于江廣印保于江廣印

肉皮印存于江廣

松子印存于江廣

向於江廣年存

胸後中藥方痛藥

印列座

布帛用多氣作口皮人印存於江廣

古今名及陣羽誠

外國奉行五朝人書

時服之

(2015-227)

金承及降羽威蜀魏奉行三村淮海等

韓箭

李承祐及降羽威以軍經生村淮海等

同

同

鴻臚自當量後守

金承及降羽威劉整

劉整

東都開河第

同

外國奉行

威嚴者一席

李承祐及降羽威

白須軍裝之但
以軍裝標識而
故及方以及

膀鱗左席

一 同

鶻酒役

中康經送

軍營可

彷彿松堂席

知畫經院

日高挂滑席

石列紙加く

はり起と申が後魂と文林をひかへて而立と
おもむねおゆうと就くとよすと改ふと
まなうとぞこのうちよあらうからとひづる
あらうとぞと日暮のまへあらうれど人
へ來へたまへ

航海日記

三

于時萬延元申年正月十八日至墨利加禾利賢國は
台節御用被仰付今日發良方段坂ヨリ鑓倉川岸
日本橋通築地操陣所着各揃テ午時飯食
と早其后大漁船乗移リ朱國ヨリ迎船ボウタシ
庄乘移リ直ニ碇ヲ解キ横濱港に着シ碇ヲ下シ
滯留

同十九日外國御奉行

酒井應政守殿 松左衛門尉殿

竹本圖書頭殿 御目付神保伯耆守殿

御入來有

同二十日横濱出帆日々誌之

新ア晋前守御東

柳川糸シ高

一
二月十九日晴天無風空色見有宜在海
横濱港名口橋通築地操陣所内因外之名
あ居る多麻子を以テ之後船引手アラサツ
エ武川沖ラアリドリテ半因リの近松ホウバタン
ヒムツ山隣ホアリヤね我那人モハシク後禾利
園園の芦を今ア往地キハスナモスハスカ
桟橋西面にて里斗ノ申の半別様浮港
先一浮地ノ一里余と隔テ浮地と下ノ浮地
之處は船着可也カ便當シテ之處モ此
舟着可也中度大也とひて日アノの住所ト

もくの煙、神事などある。ハカルを
あつて、室方二郎は柳床を作り、也。床下
に敷かれて、又、寝る。内床と外床と
間をうらまく、^ね_ねすの様と送る。シ高檻
の時、や廊たのナリ。夜は、^ね_ね西名フレガット。

軍艦
マサキ。ラットステーマント云々と、國々の宴会

の軍艦と云ふ。西年和也、^ね_ね西人、日本正月

へりけねと

日本船と云ふ。船木役を傳ふるも残
年の船、ハ石人を、^ね_ね船木役を教へゆくと、
松年を経る十一前、^ね_ね四郎子仰、^ね_ね船木

の船と、兩端を引のツ床を、^ね_ね床室のあ處へ、
ひき手を引斗、^ね_ね引手を、^ね_ね運とが中央へ

おろす。後を城下と、種の額床と、並んで、
おろす。セイ丈太郎と、船室を、^ね_ね御用舟の船

と、船室を、^ね_ね中層と、^ね_ねハモドール。カビ^ね_ね、
^ね_ねの高も、^ね_ねロイテニトの高も、^ね_ねと送

けよ。中層も、^ね_ね不有りと同く、^ね_ねも色で、^ね_ねと送

おお、^ね_ね船室を、^ね_ね中層と、^ね_ね壁に、^ね_ね壁を、^ね_ねと送
まく。高さ、^ね_ねシヨンの高ハ、マヌスの住床よ。

序より
と爲めに
我の内をたゞの
や
まかほの申すは
あらゆるの仕事と
あらゆるの仕事と
すくわたりて
次ほの合意石屋の本
前は後食料を入るよ
むすめ多きれいと
を

一
因十九申時清風日暮序秋年の別荘
一
胸氣の別荘と申すと申の別荘
此年
此地
一同なる。而も其の胸氣の別荘
おもて御所と年別とお中の別荘書也
一
般將欲と申すが中庭と相手とあるが
一
お申と仰はるが行と申すが中庭と申
一
般將欲と申すが行と申すが中庭と申
一
お申の内と申すと申すと
一
英於所と申すが行と申すと
一
行の申すと申すと申すと申すと
一
胸氣の者と申すと申すと申すと
一
高葉の木と申すが行と申すと申すと
一
お元ラ外の別荘と申すと
一
お申の内と申すと申すと

一船中を用ひのため船内とすてを以て

一役人の手船中とすてを以てを以て

一在中の役手、第一の役人たるゝもの
役手がすての役人たる役と、船と同門
一船中の者も、皆まともりあつて財を立立て

一時を廻辨

一うちを廻辨

一リウテナトヨ

一

布通船船内船と、船と同門とすてを以て

一因アラ。代々船船内船と、船と同門とすてを以て

一船内船と、船と同門とすてを以て

一ルキホ学あづれ、吉國を、林立

一同木アラ。まん清船内船と、船と同門とすてを以て
横須賀と、帆南の方々々々々因別と浦々沖と
を納エヌの事別併合モ屬と、船と同門とすてを以て
ミルヒ付備軍船長荷合、帆南國の商船横須
賀、麻布、小舟、運ひ度せ、会と、又合退避行
船の初航泊く、名所、主アマサモ、御、さざれとも
車國の名所、主アマサモ、と忠ひ、主アマサモの早
移キタリ、運行、山林、海、見、船、日、主アマサモ
房主アマサモ、主アマサモと食らひ、とあがめられ

中を経て御の沖と南紀の仲とあると云候
候。房州側所は西國の里取
八種園のれど果たぬるもあ。

北緯 三十六度五十分足りず
東緯 一百十五度五十分足りず

一同木、なる面尚猛烈多度暴風山高雲
立見風浪、唯湯之原、海面平

一木二年半別々、全五年足りぬ候と

や、今をなすうちじよちあ、之破半日には

内なる猛烈暴風、甚は至角、大洋とソーダ湖

無事

と

と、日ソルシヨルベル角はくと調達とこと、別

木又

酒石

と

マトロス共ヒルト酒石とモ同日より支度ミ、酒石等

一木多分の被印、ナセキ等の支度の色黄、

ノリは若ハ、ソルシヨルビツキヨミ仰いでも

入船の口圖の、と記念す一ノルツナリ、船中を丸

一周と用ひ候と存候事も多。リウテナントミミ解之

一正午と山百二十度後半四十五分

ゆきをなすと、おほに、おてのまへをよろばせ

一同木、なる面尚猛烈が如形と、此風の日

走ルソルシヨル、酒石を加タ多事、後暴風候

タリシキ苗左郷致今三十ノ年イニテ
ヒトミツシムトニシルノヤ

一五年時ニシテ良多ニテ 之を廢止シテシテ
小字を立す事有リテナム 东面車左衛門等あら

一同ホタル知略東南に留メリ かの初搗がレ
移行シ我即止此は多モカシシ而雨色也
白文ノシテ多モ形態似テノ解也。ソリテ
南洋而アリシモハ多モ樂々と網羅あり同様ト
アリテ解也

一二五年正月廿五日 之を廢止キテシテ
少シモシナキ方ニテアリ 东面車左衛門等モ

一同ホタル底南國猛烈おち而ノ角羽ノは壁も
船の初搗も多モ良メハ國箭猛烈ヘ 連浪船
トモトキ紙一船年の早ねハ右のゾトニテ裏面
雷のゾトニテ波船を取シ御兵士ニシテナシ
ハ支度シテ、御兵士道矢の射、其兵士
モアリウテナシトのマドロス^{マドロス}大^{タク}指揮の聲耳乞フ等モ
主兵士ニシテ、御兵士多モ筋、我即ハ少リモ
航行シテアリシモハ前初搗より西人ハ常ニ者モ
皆船とヘシケリウテナシトの指揮よ陸の筋も別

まく彼を防ぐ内から彼お半人以後の
役とまく殺害とまよの船を運ぶ事から
とけ舟船以て余所航行す。彼等の次の船も一
連沿岸に入らるる事無く、免力と取と湖よ
没する。是れ船屋は其の船を押入らるる事無く
船り、種々の船をば乗入らるる事無く、船を引
も脚の車をもひらずとも、もとより船へた
初底す者」と云ふ。

一 五年時とて九年と えと歴 もと かな
わ六年とて七年と えと歴 もと かな

一 国外なる己而爾而烈火無きの間をくわざる
かくの内船船主はれん船へてひいあひそく船中
被殺多く四年の奉替而す。又別より
奉替をよし九年。九年とて四年とて延もひの
右風雨と旱年半年をとてねねり少常の轟
音をとせられ無れ。わゆるる巣居の宇
壁を防ぐとて左側。またつまびらを船と
船主をとて右側をかくとて左側もしくは
右側がまくられとてまた左側を運の正多きよ
くとて甚多くのうどむ

一 五年とて七年と えと歴 もと かな

やうすくおまへ方をきふ東ひでまくらをよろと
一國十九年九月から西海松室宣邦より（もじる）帆
ぐりたる年は例見とまど船あれと昇斗千石四壁
一五年と山高八里、（うやく）底牙ありある
やうすまなはんの日本あ東ひでまくらをよろとが

一國海未だ島うち山高わゆく（おほく）創立政
しめくねと集まはぬゆ次く左報をちあら
を外毛賀門にて、（おもて）毛賀（まか）コモドル
ときトテ見リウテナント細浦アハフルジョンチヤベジ
修るもくちと毛賀内モマトロスムると
名々毛賀のあらわはる一物のたれ（け列）一毛が
並のまよアリウテナント生く彼毛賀改革年へ年
ひと艘を毛と何とぞ取く

五年と百八年一里、（うそ）後あらわる

小半をな、キ方ニすみあ東ひでまくらをよろと

一二百船の申兩頭鳳烈船御（おもて）人（ひと）金（かな）
一尾犯ワシト、便（びん）吉（よし）日（ひ）船（ふね）烈（れつ）船（ふね）と音（おと）一酒（さけ）と佐（さ）
（さ）一宿（しゆく）夜（よし）と毛（も）角（かく）船（ふね）とま（ま）多（た）度（ど）モトル（カヒテ）
（カヒテ）人（ひと）マタロス（ともの）さん（さん）あらむた（た）風（かぜ）と（と）雨（あめ）と利（り）
科（か）ヒテ（ヒテ）モドリ毛（も）行（ゆ）行（ゆ）モドリハ強國（きょうこく）の
え方（かた）

五年止毛（も）行（ゆ）

え毛（も）行（ゆ）

小年と年をうながすあひ東至を年をうながす
因る西墨の風を除て初ハ宣和より來り
西年と山前を下すえと廢はれし年をうながす
小年をうながすあひ東至を年をうながす
小年をうながすあひ東至を年をうながす

因る代の周の内年をうながすは無國の元祖ワニ上
詔する年十二月に後地をうながす而して年をうながす
行ヒリウテナントハ高祖が大極廟酒上鶴承牛
革一束の肉食ノトロヒマトロス有財
西年と山前をうながす
小年をうながすあひ東至を年をうながす
小年をうながすあひ東至を年をうながす

西年と山前をうながす
小年をうながすあひ東至を年をうながす
因る子晴和尙の年をうながす
西年と二年と えと年をうながす

因る子晴和尙の年をうながす
小年をうながすあひ東至を年をうながす
因る玉情和尙の年をうながす
空多敷とおとく御年の大人致後某次年をうながす
玉情和尙の年をうながす
被とおもはり近マタスカヒルト云酒と用ひ
すよおもはる又床酒と云ふて云々人利は
十日をうながす

五年と百四十丈と
小字ルをナシテナリ。西至半千多キメタリ。高
因セラ。家墨ホウノ年。別蘭房サニト井ス。シテ松
ヒムナシ。シテソク。延國サ後ミカルホニヤ。サニフランスヨ
此の石舟。モジカ。

六年と二百九丈と
小字ルをナシテ方半。西至半千多キメタリ。
四年。

一因ル。辰東南而取。立方。家墨。井。松ヒムナシ。
蓋。木。ヒ。鐵。桂。桂。木。ヒ。井。延國。舟。の。重。ミ。ふ
底。ロ。ホウ。ウ。リ。ト。云。ち。引。シ。ウ。ス。ミ。の。な。

六年と五百半丈と
小字ルをナシテ。西至半千多キメタリ。

一因古已。陸。堅。舟。船。モ。シ。ル。

六年と一百半九丈と
小字ルをナシテ。西至半千多キメタリ。

一因古。年。半。清。辰。東。南。而。取。立。方。家。墨。井。松。ヒ。ム。ナ。シ。

六年と百四十丈と
小字ルをナシテ。西至半千多キメタリ。
因古。半。水。ガ。而。東。南。烈。航。行。ト。別。ラ。ム。シ。井。清。ヒ。ム。

一因古。半。水。ガ。而。東。南。而。取。立。方。家。墨。井。松。ヒ。ム。ナ。シ。

五年と百をすま

えも そよぎ

小ニナニモニテテアリテアリ西カモニルアリ

一 宜トサントイスモシヒトアリ。何モテシ帆渓半江奈。

ナシシ山モシルチモテス。何モテシ帆渓半江奈。船の
事少くセシモトモトドク。船モテシ帆渓半江奈。船の

自一二の島モテシ帆渓半江奈。船モテシ帆渓半江奈。

ナシゲタクシホシアリ。ナシゲタクシホシアリ。船モテ

弟の事やおらまの事よりまの別と離はけ田舎
にありて旅館をとるとなれば、あれが我朝
の通ひとて數十輛の車輦奉り、うち車
馬で走り、度一びて年とくは、是輛
のまゝある日、角ぬるのとたれり、是様と見
て旅館をとるは、度一びて、度くね、かまほ
やうをあひて、ね旅館へも、前くぬ、体をま
内にあひと日かくの役所を、おとと宿院町なり
矣。二階ハ兩階まで行の、主計本支所と通すを
は、不思議あれど、あるもと、歩きのるひとと
あれど、あれど、を、旅の、立ち寄り、すむ所を
主計レルトニ、年数り、ナ斗ト、と、あれど、と、経て
あれど、と、併る、我の、すりべいの、と、移して
厚き、と、と、ます、停て、と、ふと、もの、と、左の、此
と、あく、別れ、と、と、あく、心、と、熱國、と、足を、と
さる、あ、や、と、と、あく、心、と、熱國、と、足を、と
都多陽昇、和國の、すり、の、れ、小、駄、近、ゆ、と、
吾、角、と、と、あく、心、と、熱國、と、足を、と
生じ、と、晴、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
や、と、あ、の、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

のくわはまをすゑ莫すく眼もどくに下き下
終のちをうげむとあらとうう意け。
鬼のじごくをよる官の老えぬと身の衣終
男の肩袖般のりく。腰の下に四方の切と
毛きもよし首のやまとあさぎづる西洋
布。肩を支ねのひのひすい乳のふきと布を
つもしり。肩のやまと猿のトビスに角の布
のくみの伝のやまとへく。かよまく。せんばが
斗のすけのひき。櫛をひき落とし。身の色と
毛きも布の柄。ふくら。肩をかくまと。緑致
の。くわくわ。ほくも。あきる。うと。落葉
つるぎ。くわくわ。首一毛満着。年を足下
毛。くわくわ。肩をかくまと。仕事。太角
肩。ハジカと勧。肩をかけ。仕事に勧。たき
き。テ。人をまねふ。仕事。うまく。入馬群
シ。まく。高群。下り。し。種國の。うら。ある。み。
一下にまく。ハク。戻。下に。シ。底。酒。も。向。モ。タ
エ。ミ。ド。レ。レ。か。に。た。と。よ。け。ハ。居。ミ。れ。よ。角
み。地。乃。露。作。手。よ。は。の。帰。と。有。山。ミ
ち。本。と。山。地。酒。居。、櫛。の。る。本。角。タ
鯉。と。今。立。と。取。み。——

五年。日。ナ。ル。湯。と。石。平。一。室。大。る。之。セ。年。が
ト。木。一。石。ナ。ム。ア。ロ。カ。サ。カ。ナ。サ。ニ。ム。

因。ナ。ム。成。晴。而。ナ。リ。同。屋。房。而。ナ。リ。相。國。キ。

御奉行、日本本の鍋と豆の勧め入る事ある
之る事多しハノ内と外リモシテシヤ
アリテリトヨシニテモアリシム英國よりは日本
ツラ役と達ニ付ルニシモル体か敷カシミリシ
リシテ國(始)付来カ一英人ヒテシルニシ
キナリシラ今シモシテ國(の)マタスナホ國(近
シ)ゆキサ王(在)府(近)シテ車(の)軍船(を)シ
ウケ(は)死(の)婦(人)ハ(之)モ捕(り)英國(連)西(宮)
女(の)道(を)おら(散)ニシテ車(の)連(車)
あれバ(も)み(ハ)ノ(の)婦(人)因(を)ま(シ)ハ(之)モ
中(一)札(キ)モ(ア)リト肉(を)食(ふ)シシ(之)モ止(ム)シ
あ(爾)ノ(有)國(の)海(を)一(度)と(度)聖(の)湯(之)
あれ(シ)ロ(モ)ハ英(重)の(シ)タ別(リ)ト(ア)リ(の)事(市)
中(一)年(一)半(セ)月(斗)ト(ア)リ(ト)而(シ)事(ア)イ内(上)
シ法(加)ヒ(リ)ハ(外)アリシト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)
アリ(第)ノ(事)ハ(外)アリ西(の)事(ア)シテ(之)モ(之)モ
ス(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)
うち(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)
ス(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)
うち(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)
うち(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)ト(合)合(シ)

物より國へ酒と食事も之ねたまされ
スルに日本より唐へ一船の船員も又それと
を食ひ、多きの舟より有り食事ある事に
足りぬを販樓の上にて酒食の事はあらずと体
り立てる。而して、貢廊へなる事にて一船の價で
もの運送費を取る事無し。酒食の事は貢廊にて
割引値額を取る事。旅する事の如く、船員へ高
め楠であるのみくる事多く、うちすあすきは高
め楠より例え事の船員あり、歩兵士卒より
酒と食事と人、少く船員より酒食事と人
より出づ。當國のとのうれいに我即ち
ハ船員の用意する事なく入船料を支拂ふ事無
事と云ふ。又別處人、少く船員より食事と人
余種國の便乗を以て候る事多く、少く船員
一同うちる。支那商は氣拂ひくとも國々不窮又
船員と是を高國のリウテナント等（半く、主者の電
子未、年よりがよリ年給船員、通ひしも國漂
多とがてお被（ナ）テの事のやうに船員とそ
れ、船上より（船員を保ら本國へ國へ乞
と養ひの事居至國）國へ乞う。而生れとある
事の主とがて年より、是とをとて元よりそれへ別
る事が國外とゆることあり。是より前よりは別
とある事が國外とゆることあり。是より前よりは別

一

一
同うちる。支那商は氣拂ひくとも國々不窮又
船員と是を高國のリウテナント等（半く、主者の電
子未、年よりがよリ年給船員、通ひしも國漂
多とがてお被（ナ）テの事のやうに船員とそ
れ、船上より（船員を保ら本國へ國へ乞
と養ひの事居至國）國へ乞う。而生れとある
事の主とがて年より、是とをとて元よりそれへ別
る事が國外とゆることあり。是より前よりは別
とある事が國外とゆることあり。是より前よりは別

日暮に山を越えたりのとてくわゆる
音ふとあきはれとあらわるふ年月暮ぢに至
りたるあとは能くよおさうて石の力布勘
を離る。じふたるこたまに難有りよひたる
様なるうらうへる事。又は只やうもく家のある
ひとさんむかしの國の事。ねよて兩方
の壁に
はあつた。とてうへて壁に障ると思へた。ア
レは、まほらの事。アレは、まほらの事。
のせんじて、うへて、壁に障ると思へた。ア
レは、まほらの事。アレは、まほらの事。
あもとより、繁よきやうて、一様のわが
いとて、うへて、言ふ所ぞれば、文、井せ
と、かく、ひの、元、内、今、是と見
人をもと、附被の婦、（是とよもく、文言
等、）
をもぐり、あく、延々の所、（左、延々の所、）
代の中、そぞろがれ、（左、延々の所、）
そぞろがれ、（左、延々の所、）
をもぐり、又、延々の所、（左、延々の所、）
の、（左、延々の所、）
人、（左、延々の所、）
の、（左、延々の所、）
人、（左、延々の所、）
の、（左、延々の所、）
田舎、（左、延々の所、）
の、（左、延々の所、）

シテナリ事と翁折へ因る者「ト」と完まつてあひ入
らんをもんじのうとくとく年齢に半も余年の
男「ト」りよ出立の身のままで（身内をもくろむた
るまハから毛織とまな西宝済のがふ鳥イ他
ス、額量は歳歳より無らかの高保有獨特の
少み後出あるのれともて一聲驚風見御内
体^{ヒトツ}ノ一ノ身がわゆか「れり」所はて
るをもくろむ有文^{タケシ}酒衣^{ヂョウイ}さすをすて
酒と酒^ジモテシと春^{ヒメ}色赤^ル若^カ
ちはウルユル付とふと生^リ化^ク又雨^ハ字雲等
斗^{ヒタチ}の身^{ヒトシ}赤^ル一^ヒ年^ヒ、五^カ年^カをもくろす斗
のみねみぬの身^{ヒトシ}身^{ヒトシ}と半年^ヒ年^カ
也と又三年^ヒ年^カと三^カ月^ヒ身^{ヒトシ}と身^{ヒトシ}と
ぬう^アう^ア身^{ヒトシ}行^ハゆきと^アのアレ^アと身^{ヒトシ}
我^モテア^シ身^{ヒトシ}身^{ヒトシ}を^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}と身^{ヒトシ}
の^アも^ア身^{ヒトシ}は^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}と身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}
文^ア字^ア離^ル身^{ヒトシ}身^{ヒトシ}も^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}
足^アそ^ア立^ル身^{ヒトシ}身^{ヒトシ}自^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}
も^アイレキテルの^ア身^{ヒトシ}身^{ヒトシ}和^ア身^{ヒトシ}身^{ヒトシ}身^{ヒトシ}
年^ア身^{ヒトシ}身^{ヒトシ}年^ア一^ヒ年^カ身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}
生^ア一^ヒ旅^ア緋^ア酒^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}
八^カ角^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}よめ^ア人^ア年^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}
未^ア宿^ア身^{ヒトシ}と^ア身^{ヒトシ}何^ア身^{ヒトシ}身^{ヒトシ}

今朝の御用事は行
山形の事で御用事は行
山形の事で御用事は行

一 國七百三十萬唐西國陸海兩半別馬軍
シシストル室ノテ先百ノ今ル市中越處あむに
ロサノ故ノソニトテアノ先大の羽林軍と中
半ノミ我とトトクミ且シ承ノ未大ノミシテ
名を以テカム斗ノアノの御事もあくま
フ頭ヲスムニ一済のタメ後勤軍ミルナムニ
ミリ財斗勝ミルホモミルシテヨリ内
事も持傳ヘ又は下く通ヘ多シ也ラム
アヌミカリミテモアハムタリ區別モア
モアハ止ムトテ病にあきシムゆキモアシム英
國ノ公ミテマヌケルアキル是能ムトアリ御ヨリ
内事ノ支事アズムトテ多シテ一年半斗の
男も本ノ申ヒトナガルシテ又メカラバ肩
糸緒モトトクアリテ更ニ身内モシムルのタヌキ筋
ミテ十倍ナリ終度高モトテアリトマリ人筋
の多キヤマシテアリエヌハ猶モテアリ
筋方モテテ山の風氣ナリハ山西の山筋
筋モテテ山の風氣ナリハ山西の山筋
斗の男も本ノ申ヒトナガルシテ又メカラバ肩
糸緒モトトクアリテ更ニ身内モシムルのタヌキ筋

秀吉はおもよ滅ぼうとする事をされどと衰
東北はるひ後高さるのをのけりげのハ英
画西國よりくそくの画すりて在る事と全
てかく作レヒト云ふのくもれと金としと
斗メテまほ校有郷内もく廣く一とす内
もれ作を何とする事なきとく作リ之を多
あるや止の四女取石人集メテ主教を多め
るに分別もくらゆす

一
因ル西支那御内御序五年の別王滿ノ若年画
ホウハシノ本邦國の豊國ヒテ御子のソルジヨリ
ル肩と手と足と義アヒ無シ五指併

リ上陸ヲ遙キ南國のリウテナコト少鳥毛子紫雲
と名リ左左半腰ハアツハ腰以下裏裏身に足
底板の筋神又金と赤く色の筋ア自己之冠の
ラヌ赤き二色の相を及ベテハ巾ササ斗の
而キテ耳もて肩もよリアリ腰もよリ身もよリ
華テテ高めくともとてん何もり人をあわせ
しめ之有々南國の甲冑ノ内更テ王漫もまた
川原木の木の棒之筋部後身の少多の筋
筋半身ヘル肩と分別とる一並に下
まくはまくウ通て右側とバ国王のものと對面
あり。貴王の書の跡人耳と傳ひ

晴國と云ふ所ある國也。雨季すとと南より
イシムカ島あり。山あり。山中には雪あり。水
を多用す。又例すやまとの山も。此年中一レド
烟と云。此山中内に山峰あり。山峰と曰ふ
者也。山と曰ふ。山と曰ふ。山と曰ふ。山と
曰ふ。此年中、多處の山峰の。
因名。知。す。唐。拂。松。主。國。人。家。遠。ア
ハ。ミ。ル。ア。リ。之。向。島。ア。ハ。主。國。ア。ス。お。そ。ア。チ。ツ。ミ。云
因名。辰。晴。拂。松。主。國。年。別。ア。レ。ジ。テ。陸。西。國。
ニ。ス。ト。レ。ラ。シ。ク。ツ。カ。ク。ツ。申。別。ツ。晴。拂。
因名。己。ヤ。經。拂。松。主。國。ナ。ル。拂。今。ビ。主。國。
セ。ト。ア。ル。拂。國。

因名。壬。子。丁。未。拂。拂。拂。拂。拂。拂。
因名。未。巳。未。巳。拂。拂。拂。拂。拂。拂。
因名。丙。午。未。巳。拂。拂。拂。拂。拂。拂。
因名。庚。未。未。未。未。拂。拂。拂。拂。拂。拂。

因名。丙。未。未。未。未。拂。拂。拂。拂。拂。拂。
未。未。未。未。未。拂。拂。拂。拂。拂。拂。
未。未。未。未。未。拂。拂。拂。拂。拂。拂。
未。未。未。未。未。拂。拂。拂。拂。拂。拂。

一 因木ル。支那東洋計画と西宮のアーチを、
カーブもセントイス等もアーチに用ひる。

一 例へて再び承り初稿にて寫す。されども
我が帆のまゝは若く多く因る事、
多數のたれねる原稿の原と云ふ。
昨も帆今更手書きで原、と書く事無し
トテ改めて名前を付す。而して書く事無し

一 因木ル。支那東洋

小字にて右三ハニ

うと度て手書き

西

ある事は年々書く事

一 有明。支那東洋

一年と二年とある

うと度て手書き

西

ある事は年々書く事

一 因る支那東洋

五年と六年とある

うと度て手書き

西

ある事は年々書く事

一 因る支那東洋

六年と七年とある

うと度て手書き

西

ある事は年々書く事

一 因る支那東洋

正午過二月半日

中止の事せらニあ

一 因多已晴少風

二年過二月半日

西行三月半日

と/or

フウニシスコ。流のあつと遠くおと、折き鳥と申

申の別とあくべ小舟を般車りおと車舟としん

ひあ車舟科ちナドリト云底の別は流に、もよほ

幅もく狭く兩舟へうよす小さき山あくと山と

アキモ一遠くに橋をひいた左の向隔を里と見

まよすれあ車舟一くわくうかよすき車舟

有る所によを湯と獨へ形ハ止角、作るさ

ナマカヨサノ、四万三千門を計

ヒヨコ年一船多の船と角、又を湯の内

オイ後の船と船と風はふと角がを

も主主車舟車舟モナラニシスコ港くある。アキ

内廣一とくす中よ敷十丈の小舟あり。アキ

車舟小舟の山すよを湯と構へ港内とぞ取る

余段の太船也すね流もくあれ、例へ西

行船と船と左岸おのすに曾西國の軍

船ありて、量がよの船と、アキ行船とすじ船六

ノキレコ額舟とくちけ利便の額舟とすり

額舟の全紙色ひふすりあくよす、あたの少々カル

ホニヤの中へ今もハ西洋毛半八毛半二毛半

毛半一毛半船を參る。車舟の車舟

人などアヨルアキリシテアシナシル事也と清
國ニアリト作リテシテ後里氣取るゝアヒト
シトト無クモサシトヨリジエ石シテシテ至
ト而水の所ノ外トシテナシト奥ハ内山有る
辛年三月ニテ教主ヨリ金四十万を貰フ
ハ急急往内に有月ニテキユルデシ所シテハ
三月ニ万五千ギユルテンを納ムト但レギンテンハ我
假有り、ある市中ニ他シテアレニテ去
來モアタツマニキシテ以あを碧川シテ所と
シテメルスアチラシの子ヒヤルタヒテシテ國
の里也シテニキリニ同モジナカニ所成
セハ丁度西國の少ヒミシキモトニ刈也とモシ
ヨモギモトビテ而此の地ニシテニキリ之ニ余
はシテ左左シテニキリシモ前とぬくがめニ人食持
シ有シテモテ御前御子アヌ斗ナシテニジヤルト
（豆本）狂死モアリシテ無間の所毫湯也
（豆本）口のみの聲と上ト同く狂死スハ軍艦威
鉢也トガリシモ狂死モアリシテ無間の所毫湯也
アヌト一造也ナリシテ名前はシテ川印模トシテ
シテ御前御子アヌトキテ名前はシテ川印模トシテ
源也、御の名セブメントトシテ川印模トシテ
彦也、

主の色あるの色古れあり子ヒヤーントと云ふね
主下経送船の利と云ふ河向くとん風毛うる羽
斗みくらぬれハサントサスの如きす何より之船
へも行とれくぬれと神主帆船江手四半
艘底御船の主信と云サト因く底アミル風
アリドウぬ送く事無云歌のよ
アリドウ何より
船あはセテシテ後ひモジヤーント本オトク我
船アキラシ多チナ歌のタ別モシカビテ
主行彼と船も見け川よりく様

此年タタケニラニ至瀧まで車室を乗車を
心ニナセナリセナリ而て平ニナリ

一 國中日本兩情年別アリヤーントと云陸と主ヨモトル
の見アリムニツの内旅モギヤシのうち船の内
を達ケル船也さと船もて主ヨウラ船と號
名とたハ廣きち極有ケ種との主ヨウラ
主ヨウラ又アリムアリム要人ハ主ヨウラ主ヨウラ也
行申アリボウハタシ油舟とタ別トアリ要人船
主ヨウラ主ヨウラ船とタ別トアリ要人船
船くヨウラの主ヨウラ油主ヨウラ病船と同カニ
フランシスコ船より主ヨウラ主ヨウラの船とサニ
船の船主ヨウラ主ヨウラ主ヨウラ主ヨウラ

國のま西キノ列何萬年がまよ列
サニラニシスコ港へと陸上由道へりも、神明の
近いトヨタカレ油屋止多御多のて年半何年
店の車多モト軍ハ歴々屬すトヨタカレキヤ
マンとルヘリトナ殿の車多用年の方
ヨウギヤマンのう後莫アトロトスル小
入トロト良事多シトモテ車多モトハガム
トヨテ車多也トナの強キトモテスルトヨタカレ
ヨラジトモテ居テヤシヨキスン。インテル子シヨルノルヘ
ルレイトモテトヨタカレノニモテナハラタ
主計内閣アラカツアリ或トヨタカレノ取ト
ナシトヨタカレ自トテモトヨタカレアリハ想ト
ツヨリ胸高ミヨシケヨリ角トヨリ見立トヨルカ
角車立トヨスケヨリハ汁トリ下ト通トトヨハ
ミの如キの如クナホモトヨルトヨリ又トヨリ
候トヨリカドトヨルトヨリモトヨリモトヨリ
本ヤヒヨリ名トヨベルテラトヨリ樓トモトヨリ
ヨリ候トヨリ名トヨナタヤ名トヨリモトヨリ
帰トヨリカドトヨリナタヤ名トヨリモトヨリ
ヨリモトヨリ名トヨリモトヨリモトヨリ
トヨリモトヨリ名トヨリモトヨリモトヨリ
トヨリモトヨリ名トヨリモトヨリモトヨリ

脇を感ずる事と挿すものは勿板ハ英國科
理とト色とテシカヤハサムのめきとのとを人乞
ハシキチニ之多の油中シラスチのよぢる
事あり汗ナニ又ニキモトトロ血パン松形
トヨミクス又鶏の丸巻トイテモ厚血
筋ともス南無雲利かの年ヒテ色白ト云
英國の虫核のヒトミト牛内の陰莖が
育まるアリタリテの事もカヌトイテト血筋
生筋と名シテ者有るトアヌ事多カニトヒテ
コウヒントアヌシテ筋者トメ筋を
合ハルハ骨筋トテ筋を合スハシバシトヒテ
砂糖吹のみとアヌヒツヒルヌモト筋筋
又活ヌモトハシテのタヒミト骨筋トヒテ
たゞ生筋トテスケルハシテ筋筋トヒテ
えんも科筋トテ筋筋トヒテ筋筋トヒテ
シテ筋筋トヒテ筋筋トヒテ筋筋トヒテ筋筋
ニシテ筋筋トヒテ筋筋トヒテ筋筋トヒテ筋筋
筋筋トヒテ筋筋トヒテ筋筋トヒテ筋筋トヒテ筋筋
筋筋トヒテ筋筋トヒテ筋筋トヒテ筋筋トヒテ筋筋

廿石のぬすきを下す。床の下に籠
シテ居て、先づ手を拂つて、かづくふうは似てる。あした
籠を出でて、伊豆のまゝには要
事と云ふ。がくは似てよひがくも
筋肉厚き反は少後もあつたと
てお方の一氣をりて夜旅す。高人本物
の如きのゆゑ、写女と云ふと聞
きと恐れがれ之

一
今朝の日出る迄は未だ移らぬ。便角
鳥居前橋の船を端まで行船を有むと云は
タシがよ於てす絶命と有ること無二事
止も我下さるやうめあひ二つ見しとちる
コモドテニキヤールの捺付にて、下船
多忙に川あれり。此のコモドリ降りとあり
ソレに留められり。舟の底に空船をうちも向
並に相手よおり。云ふと先にあれば面と
トトロは肩被り身の傍に立事。難い事だ
被りてゆく。なんぞ船の事。わざと例れ
あれば汽船の事。さうもあつたと云ふ
事。さういふ事

國うる所下はタラシのやま英國の役人
おこましにまよあそく不意に依り、ツカセられ
たる者があつて、小より多くもゆかと申す兩人
ゆかひの市井へぬかると高ひる處あつまつ
まこと所の者ち耶、ナリの事とありばれ
より下るに何より又まともふく様のふの肴
ねどりにまつて、ばくわくと風を吹ふ候て
きを下すとあひよ見のあせり、ナマ耶、の女を若
形と角ゆまとよしと風を吹ふ候て
うすくに例あふべうとて、うきややけ
の写真、うきややけの風を吹ふ候て
スナに魚を吹ふるあく候め半くうきややけ
ゆかひの所下はタラシのやま英國の役人
ランドトウヨウの位下りてふひ地のだへとまつて
くく骨のうちとて、まちと又肥むる。已
別て車へあくく、車をもとせんボウケトリ前
車をもとて、まの申別ボウハタニ、車をもとまつて
威神をもとて、馬の足下車、車のまくとて、車をも
アヘンボウケトリ、車をもとまつて、天承をもとまつて、天承
お聲をもとまつて、天承をもとまつて、天承
リと申被り、天承をもアタマで、天承をもとまつて、天承
少々下すと申被り、天承をもとまつて、天承

ツ曲がくる無國役所、口笛を吹きまといが唐太
ノリ、臂筒の支石少乳のジミー左左と棒
ああ、中央、うちきをひ英佛並魯蘭と和メ
多國の役人、口笛を吹き止順と並ハ列を立
テ、手筒アリ物を手の少道有子背との
シテ、一喜一悲と打
トウジトハ年々絶縁を育ムモニテ、又エラ
トモトハ面あると有ル、移人ちのナ行
トモトハ、左肩の筋筋、又上階に階
の事も、運行するじきをと極メテ、又
トモトハ我國を出のうる。

一
因に、多氣の腰肩年、別なるジヤルトトニ産
はれ、我國と江原の名ね白砂、これが彌セキ
の年、ちりれバヤ、も六七種より多く濃元、
も角、ふうちりれ、引くすも、うふるく入
の直すよ、
株主の而白くすも、アヒ内代
トモト、ロモ西モス、ノビホタニ、酒屋
南、北、洋、アモス、ソニ、ソニ、ソニ、ソニ、ソニ、
トモト、モモス、ソニ、ソニ、ソニ、ソニ、ソニ、
那人、多氣と契約する、壁のあく、モドシトモ
シテ、既に、ソニ、ソニ、ソニ、ソニ、ソニ、
ソニ、ソニ、ソニ、ソニ、ソニ、ソニ、ソニ、ソニ、

あひとくと西の島とぬきころうじらぬきのあゆ
ちやくじよと年年年國とキヨの飛車と因
一服とまふ停一服の灰わがての馬又と馬を
ソロト うちと國界とるみよ
國ある那の雲ね火風日本帰れぬ舟より
りかへらはぬ洞の舟のうよゆく
移かす何と十名もさる例の箇度火
よきと似とぞ どうはタニゆうなす 木
あればさくまゆる するよるるとも日の
もの船と火船と是す御承年イカ月も
又はゆふヘルヨ 月 ゆす移み
すす水産舟てゆりしがと停一ドリまこと

まつ列火火ハ冬モトル 勝盛源序
とく附多喜と羣 絶地を衆内又喜
ノ船と喜 て着夜をすりゆまハ絶限
みぎりとグルハイ とくなち弱れを衆内
りと列火けのゆりしげるトス於く海
少くまこと 沢の車と石壁と移る
國である辰巳而乞情を院セラシニス港
又消防の役大い限るおははしれせり
めに在り 事主の役大い限國の
自力がくのしやくわく師くみま あたゞめ
只そ重いせめりまくのく文書をくよ

皆ゆ年々の腰のめあたよりやるも等く
まじく乃ちおもむきにあらへてはまく
あひをふくらめひとちりとまくはまく
而つてはすりぬれたり。何處ものも代え
てあるに腰痛と云ふ。ちひとま
因せば雲を口刑止焉から肩腰の筋筋
の病なり。カランセエアのう四軍艦を
ゆ國する因よりはのり腰痛が、筋肉の
ラニスコ行ぎまじとつるのすや筋、皮のす
ちくまの筋肉の筋肉腰痛よからず。まな
りれ半々達みの筋肉じきとりどりとくら言
ひ

お酒をうかがふ。文子晴はうだいた婆娘らと
そぞれのまよ歌のまじめうきよお歌
の歌うて因くまじめうきよお歌うて
秋園がまじめうきよお歌うて
まのあうがのうかくお歌うて
ゆうと産歌うきよお歌うて
まのうかほんとよがくねぢれ半ドリとよ
まちよまじめうきよお歌うて

一
同ルキヤも青浦市中、あく少舟をまし
仕あとお出であ居る。向て簾を移す
を禁めど居候る者あれどこれとどもまくね
移事候ふの用ハ多國入陣のあひ日不
の舟舟とまよお運とどもけ流は小の船常船

あり海と二年を度の間に船を人ふるいとす。而のあれば
船をとす。かく帆をけんの意。湯をまく。役地を
あると。ふはたまつて。用をひき役地をあるす。は
意。湯をまく。港をあらゆる。山の中には
ある。それ以降。かく。け流をまくる。より
す。まことに。船と魚。えぬばり。船又山
とよそぞれ。宿泊す。

一 國事。未晴。和風。

此が物をかう。年を主。小半春を多く。重ね
え。假年。かう。ちが。西方を主。東方を従む。

一 國事。申晴。而。風。而。己年。の。月。之。順。風。氣。従

年。順。之。年。主。之。や。年。主。之。が。

西。方。主。春。風。方。

一 國事。酉晴。而。風。

壬。年。主。之。亥。年。主。小。半。春。を。多く。から。あ
え。假。年。主。之。酉。年。主。多。あ。

一 國事。戌晴。而。風。而。庚。年。の。月。之。順。風。氣。従

丙。年。主。之。亥。年。主。少。あ。の。年。主。多。あ。

一 國事。亥晴。而。風。而。庚。年。の。月。之。順。風。氣。従

丁。年。主。之。亥。年。主。少。あ。の。年。主。多。あ。

一 國事。子晴。而。風。而。辛。年。の。月。之。順。風。氣。従

戊。年。主。之。亥。年。主。少。あ。の。年。主。多。あ。

え。

一 國ある。五時半の間、左羽弓と右羽弓は、前原の上高木小治
山の山頂の付近の山を登る。山頂には、山腹の石碑がある。右側
の碑文は、左の碑文の下に書かれている。右側の碑文は、右側の碑文
の下に書かれている。右側の碑文は、右側の碑文の下に書かれている。
右側の碑文は、右側の碑文の下に書かれている。右側の碑文は、右側の碑文の下に書かれている。

一 國の事。五時半の間、左羽弓と右羽弓は、前原の上高木小治
山の山頂の付近の山を登る。山頂には、山腹の石碑がある。右側
の碑文は、左の碑文の下に書かれている。右側の碑文は、右側の碑文の下に書かれている。右側の碑文は、右側の碑文の下に書かれている。
右側の碑文は、右側の碑文の下に書かれている。右側の碑文は、右側の碑文の下に書かれている。

一 國の事。
右側の碑文は、左の碑文の下に書かれている。右側の碑文は、右側の碑文の下に書かれている。右側の碑文は、右側の碑文の下に書かれている。
右側の碑文は、右側の碑文の下に書かれている。右側の碑文は、右側の碑文の下に書かれている。

一 國の事。

之　ノセシ　而レナヲニテ、宇メ

ノセシ

一
國ニテ商ヤ居ヨリ月折加辰シカキル、
左ミカ、英國他ヨリの山々、先メキニク、
極モの山々、とある。又、英國の軍艦、トハ、
船トハ、双弓トハ、船舟トマ、トテ、所、新、
シテ、音ノイ、生經渡、。英利國、軍艦、トハ、
先、自今、の、性、船、トハ、多、也、石、木、船、も、
自、自、船、ト、冠、ト、ト、シ、奉、被、
シテ、
二
丙午正、テ、有、早、年、ア、
ノ、イ、リ、キ、ア、丙、午、方、早、年、ア、
因、ノ、リ、時、晴、少、風、お、五、萬、の、る、ノ、レ、ル、
レ、レ、リ、シ、テ、ト、ハ、モ、シ、ト、シ、ト、
ホ、モ、リ、沖、遠、リ、而、シ、舟、を、般、ス、

之、午、正、テ、有、早、年、ア、

ノ、シ、テ、ア、

一
國、ノ、リ、支、那、朝、朝、那、知、リ、列、ハ、マ、添、ミ、取、行、ジ、
遠、廣、里、ニ、シ、テ、所、幸、の、沖、カ、リ、又、添、ア、ヒ、西、方、小、
色、あ、ヒ、カ、ミ、ス、西、方、小、魚、ツ、モ、シ、カ、リ、ア、
魚、ツ、モ、シ、カ、リ、ア、
上、升、行、船、ツ、モ、ス、け、下、升、
同、リ、
平、當、船、舟、を、衝、ヘ、生、ト、一、年、の、列、ニ、キ、國、ト、ア、
事、有、コ、モ、ト、ル、船、舟、一、本、行、船、ツ、モ、無、見、可、同、リ、列、
天、佛、口、要、ア、ト、雷、暴、威、而、爾、國、の、名、ア、
有、シ、天、佛、口、要、ア、ト、雷、暴、威、而、爾、國、の、名、ア、
の、あ、人、か、事、一、中、多、ある、な、と、約、本、ス、
ヒ、ジ、横、ノ、ハイ、ナ、ア、ベ、ル、船、ツ、モ、ボ、ン、余、ヒ、船、ツ、モ、外、色、

音く柳、似ふもまかのものとづれも空
をうきまの別日や人の名のなかに遙るよ(後)
わざくおめでておとへ音あく花ふんとお
そくいに秋ふすもと事だ。

はる年よりハナマ水さゆり やはるさすも
えど なまく水を。 もち年がま下

一
同くるる勝車即年別同車うねひを物と後
ウヘ冬軍壁くらむ車と奉りス近砲を考瓦先國
の舟をうけ因ひ又と車方事一ハマ漆豆等を
あとて之前年。 板移をくわくらむ船底をくわ
車よりの車て 大勝車(よしん)は車うちとて度大ト
右 大勝車(よしん)は車うちとて度大ト
下向をくわくらせ印の壁へきくとたれを病を

ト中央が通れ外は下向。 古ハ人をくは車の向
をえり合ひも先と入道をうけりと。 後の少
の車代りの車と下向車は漏がく移をくわ
化多ひす改めれ移道(ひだり)は大勝車の移道
八年ある年(はると)とよもととくと用ひ方ドルとよ文
軍の車とステンカワリースレヒハマナナラアズベル止
かず七里の路と(あよさにドルのあひとれ)有板居
のあよしとシヨンロギ(オホベルとおとく我聞の移道と
アスル人(ハキアのぞ) はばの(あよさに黄人)と
聲の毛(テ)レ何(モ)もとよとよとよとよとよとよと
くと年(かと)と荷の名(モ)もアハヌ付と望(モ)
邊を左と右を度(モ)とすとよとよとよとよと

ワシニトニ
華盛歌飲水をイスラヤ欲て化銭取立を成制多
移さんとすね大將軍と解くもじらむとこもく脅す
キテテナリたるのとくの於カアスル元もくるる子
の脅のうそトモテ主に白毛色を有モソツモ文
通ガルハ云初抵カタモナムモアヌテ度之シテ即
ヨリ川ミテ移とモキテキテ止ムモ中列諸國の
立馬多サクの西ムノ如ク内車改止ムレニ塔
テスルモハ松の木トモ似テ牛肉モト食テノ又
又乞ミ事ナ付キアスジカルニハナマ清
キモミのるモナキモナキモナキモナキモナキモ
ケル。ノウモハナマタヒニ中モミ色白キノモナキ
モミキ吳画モナセ因のノムノムルハモ廉送

ノイハシナムトモ高の歌と歌の工を歌羅ハ梯
子の歌くレバ戸隠の歌の歌ナリワタ年の年も
未ナリて信ヒル族の歌ハ皆有歌シテハ國も
をもセリアスの歌集ハありリテ。格算亦
ホ音トの近歌口一ノイクアリミテ。ノリ山風モ
リカリト終リクドモアリミテ。ノリ山風モアリ
ヒムスボウタスナリナシ。先きシテ年又フウト
ウルハラタキヨリ二度モナセ地を角(上底)ハイシキトモニ
幸。ボンド宗田辰ハ九インギー是ハ十ホント宗内ナインギー^ミ乞
ニ庭歌ナシ有歌ナシ但レニニハ我家の八名ナモモニ高上底
モナセモナセナリモミテナシ。モ近中辰タク左近ナシニテ
今ナシナシル後ノロイノク村ノナル年コスボルト
ヲ歌メ制送ナシトモノノ高ミカラシ年少人ハモシタ

新車はあとそれから船と廻りたどり船中を廻
らしく度々走る事もあれば席車までくつろぐ西側
帆車席となく暮しとく。年少仕事にてアラニウト
とみな風雨の愁いぢりと、よや陣より、氣が
車とちぬふれど、船と車は船うねは見え難國とす
修風とさへ、うなぎ食え。は左の太陽車のつまみにうち
く。足をまとわせ、又ハマトイアスベワルミシイレキテル
をとく。五年ほど小用と車と左にキテルハ行
とりで、モササナリ。モササナリ。法と九連する。や
かく申す別前のかや、移メ、ゆくゆく
一 國を。西雲を。向て別コスベワル添を。既より。宇宣
斗りとえり。年ノ刻ミコロビスの半ボルトベルと豆
一 國を。西雲を。向て別ボルトベル玉清水を。豆を

外とおとコロビスとよはぢと左佛の初のくるへ船面
せつけ船を船と多く乗る。セアヌレヒの氣とコロ
ビスとよコロビスとよは左佛の氣とボルトベルと山の種に
乗る。氣と国と左の氣と船の氣と船の氣と船とあ
と。船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と

事は後醍醐のためよとて法といひがも運之ゆの事す
衣を被ふたゞはまく事とあらむん名ちひに力本高し
を解きぬる事より事体を存ねりとよハ済すく
の事す人たきをわらきくはゆまよヨリ毒氣流れ等
の事すともをうすあくと事は源氏にのるの如
りかくもあやまちありとするとよくの有りてと
けふ多き事々ゆゑ爲め銅錫の教をさりいは
多き事とものれりたましれ原よも人夢
タクとて事人アミトムスル事ゆの狀也とよむ事
是と云ひバタクシテクレバお院院と云ふ事
の事の事くもり説くをやの事す亦白の儀ゆた
の事ト我古のトロゲの教す似る事の外形地
ちれりとキニ無念を王コアナとよき事く爲め

ちりもあくハゆる事すとよほく人を害と心
えりへり其事もむこまへ
まと高人おゆのうり阿もびき事事中ロイレ
とくとくゆまと往來の難事と難事とく事相はま
をもすすく行もとむて家事ともてん難がんづ
も面ふ少すかくかくハサガカサガカサ
駆と走くおれべくをもく阮ス向かにちる事多
く有りては水がしおよぶ中に水の波つゝ口
の事アホ利かの中ボストンの事小い方來生
又水中に毛の毛を核せんあくよハアノ事
毛毛がすらうら毛を厚すりてある事もすこも
事筋自生す事無ハ内と一あぐる石をかく

あすまきはまくがアガモミタムル度ノ初が一
ニシカのアヤシマリルノ自キナムラニテ
タリナムラニシル。

一 国力ナカサル情事風はおやと莫人少病死
近ノ有の元ノ之をもて候別を傍古野シテハ後
身、帆毛候もモキテ候英毛酒度ノ源スル所
ニ至リ。多モ少候事也。シテハ前半トテ
在候御事又ヘモ歎キ。ハシテハ前半トテ

小十番サハト。西吉ハシナカナト

年五と石手の下。小十番

小十番

一 国士の国情事内船中もまくアブリナツトテ
シテハ多ク御持の酒をもとす也。モテテハ
候ノ事。アスベニルの酒中の廉
アサヒモテテハシテテ。メバニトテニ實ニ色赤
く其味。柿又似テモ種と指摘。仰。

ミツモトモ室

年。ヒ

小十番

一

一 国士の国情事内船中ももと酒

シテテハシナカナト

小十番

一

一 国士の国情事内船中もまくアブリナツトテ
シテハ多ク御持の酒をもとす也。モテテハ
候ノ事。アスベニルの酒中の廉
アサヒモテテハシテテ。メバニトテニ實ニ色赤
く其味。柿又似テモ種と指摘。仰。

ミツモトモ室

小十番

一

ヨネイスバニヤ領ノリノ合石キ万參セモシテヒム大
ニ至リのル高里ヘ多度ハ煙草用烟樹ノ木の山ノヘニ
ヨシトナリトマサハタマサニタマシカサガシト阿リエ
シキ

年近
ノ年近
ムニキナナモト
ムナリ

一
同國のル田晴王高里ノキナギダガオラニアルノリニ遠
火槍也相のルシニシイスバニヤ領ナリとノ年近風
シテ罗丸又な極ムトモドセドモカヌベ。東
アラシナムトモスル高里ノスルサニ國ノモ得
陸軍をモルシニスル

近年近
セモトモ
ムナリ

同國のル田晴王高里ノキナギダガオラニアルノリニ

左ノ高里山シトクル。年近ノ内ノロリテイとノ同國ニ有
舟三艘をもと右ノロリテ上所ヒリヤ。ナニ年近ノ中
列シテ原山ニ見エリ。日中半國の高里ナリ。行道
半ノ高里ナリ。行道後エリ。所年近ヒル。年近國
ノ鹿脚形ナリ。アキランノ行道ナリ。高里ナリ。口ノ
リ印の事。事ニヒ出利。擇立修國。ウカヒ
ミ年近ノ不處。ノリナリ。中ノ人利。ノリ
又年近。ノリナリ。ナリ。年近ノ事。行道。修國。ノリナリ。
年近。ノリナリ。ナリ。年近ノ事。行道。修國。ノリナリ。

年近
ノ年近

一 國士の体情より車内を脱る。お子の乗れる方
少しある。車内は十人般とする。

年と車の如きを
うそと云ふ。年と車の如きを

かうせむと下

一 國士の体情より車内を脱る。お子の乗れる方
少しある。車内は十人般とする。
年と車の如きを
うそと云ふ。年と車の如きを

かうせむと下

一 國士の体情より車内を脱る。お子の乗れる方
少しある。車内は十人般とする。

かうせむと下

一 國士の体情より車内を脱る。お子の乗れる方
少しある。車内は十人般とする。
年と車の如きを
うそと云ふ。年と車の如きを

かうせむと下

一 國士の体情より車内を脱る。お子の乗れる方
少しある。車内は十人般とする。

かうせむと下

一 國士の体情より車内を脱る。お子の乗れる方
少しある。車内は十人般とする。
年と車の如きを
うそと云ふ。年と車の如きを

かうせむと下

一 國士の体情より車内を脱る。お子の乗れる方
少しある。車内は十人般とする。

かうせむと下

國有事事務事務於ハ其主を加スルに般
をもる年ノ利モテナム（バニーケットアチャニ）と
是小港之けホリちき常能至海と一里余マヘラ
トシキト列西般とスル。マサト列ホリ也。馬肉
少無キ。支度（ホーリー）ノリ。本ノロイークヘキ。星者ノ物ヨリ
ケリ。星人（ホリ）ノリ。子ラヨルク港の有。政府
ニヨドルキ。並とく、同半列地ガリとアリ。ウチと
スナデヨリナリ。トヨマハ。ノリ。マサト列
ノリ。ヨリ。け道向と地主（ホリ）トアシナヒ。ホリ
薦す。船（ホリ）トアシナヒ。而の列（ハニテホツク）アリ。海
ノ原ト。ミリヤリ。ナリ。船を下。汽船と
近迫。ヨリ。客船の私汽船と汽船の速い人氣
丸船列斗。ナリ。ナリ。ヤクナリ。常能列斗アリ。

西ノ半列。ヨリ。政府ト便。ナリ。市店多。人手多。ウヨ
ルク。行と止。是。華盛頓府。川邊。市。ヨ
を通。元。是。人船。メ。皆。ヒ。カ。能。能。ヒ。ヒ。是。方。
スウヨルク。ナ。旅。ナ。我。那。行。ヒ。又。の。用。ヒ。ナ。羽。リ。ヒ。ヒ。
ヒ。ヒ。スウヨルク。出。ナ。ア。リ。ヒ。ヒ。是。方。ア。ヒ。ナ。ア。ヒ。ヒ。

一四年。延。百。九。九。三。月。 小。辛。九。零。五。下

ミ。候。叶。一。年。一。月。 丙。子。日。亥。土。下

一。因。立。而。事。情。事。務。ナ。ニ。テ。ホ。ワ。ク。沖。底。船。之。是
ト。華。盛。頓。府。川。邊。と。ハ。ミ。ト。大。リ。ク。ト。モ。之。恩。セ。自。是
游。リ。己。ノ。レ。ヒ。ト。リ。コ。モ。ド。ル。列。船。マ。ニ。ム。ス。ウ。ヨ
ク。ク。モ。ヨ。ク。南。公。ト。ソ。運。セ。リ。ト。南。通。セ。ル。方。ナ。リ。之

原自古より行はれて居たまゝ列子ウヨルタ佐
陽市ト幸運行川並モアリローラークアリ是
は某日午因ノ旅ノ到エテの候地を余セアリテ
え夙ノツ滿タリ候地ノ候地をもくらひ、鉄
の舟船と鐵く英國船の新船御
モカニモ舟船がまくも竟半有付之新國舟
之種と考セキリテノリ英國もよ渡支の事ヨリと
リテノル事半百の極度の新聞外之事セリトム
有二と多モヨリキハ才のよう船がたりシテム
く義を能く往來の御す道ノミを列子ノ
御スルモノ候事ノ船也ノテ又モヨリシテム
ノ市中と申り立と足踏む者モ一画無可
常より御の舟と申ヒテ又モノリシテ船也ノ
人々ノヨリ英國より來リ軍を主申テ機ヨリ船也
御スルナリトム

一
因木ラル辰巳勝多爾波ノ陸コドル彼モヨルク
モカニモハリシテソワシントン度ノ川並モヨリ空氣也
カニデホリクモ旅是空氣也ノリ英國也
底モヨルシトムモヨリモヤ候事幸也
國木ラル辰巳勝多爾波ノ爾波也ヨリ而
炮火メヘリキノ事不アレ何事ア難儀
事アリシテ中止シテ病死モ葬ムモ同ノ申リ
ヨリ利軍艦モ連ヨリモサ接致シ早シテ火事
便際ノドアリシテヨリモヨリモグレバイヒトニテ

主あるを是列よりれにて別々初めに見る所
之れ方ありナーナーレーと云ふも考ア地あり而の別
公トヨアツ添モテ清々アテテ重手と隔々歸船す
サニテホリクナリモ此ニムヒテモトトシ

五年正月十四日
立後ナリカ奉

小年十二年セト
アキナヒタリトト

一
國木ノ年晴ニ有年則雲る遠く雷槍流事
ウル那モリ山腰モテスルトキ少少アヒテ被渡河し
少少帆モ色通行シヨミハテテ少少アヒテ被渡河し
草堂坂上廻リ内モト活ヌチヨウル人アヒテ怪
名け山内廻シテ活ヌチヨウル人アヒテ怪
此處ナリ日あ人通ヒトトト河蓋モ來リシテ

フルトルフエヤトシ又取テヨモキサガシモトロアヒト
おき人多事と來リヒドラモ難ヤヒ交モ年ノリ
有向蓋モ取シモ病スヒホの年ノリ
上肩モ肩モ取シ二肩モヒモ色縫ヒキニ
而ノ治アヒテ參ヒ御主シ又多事の類ホモヒヒ曲縫筋
モテテ参ヒ御主シ又多事の類ホモヒヒ曲縫筋
有朝御主御主シトテ有事ヒヒ御主シ又多事の類
石合シナリナヒテ初モ内半麻也ナリアヒテ
此中絶モ惡主伊兵左衛門シヨシのるハア主シ又想
の物ハ金主ナリシテ御主御主御主モ主金
中船主御主御主御主御主御主御主御主御主御主御主

中の夜雨はほんと雨ばかり、べりもアラモチも煙
をまかせたる夜。まよまと金銀の金庫の角に
まよひき落す。手あらひるよ御は雪一粒
あり別れをさへ思ふ心を残して、後
徳者ともす。料理もよろこびとてさすを
アリ牛乳粥飯パンと珍めう酒と核とありそ
色あらぢきあつては耳も辛さも薄荷
入すアカステラ。ミカンリゲ太白も蟹一たら
幸ものれホウルアハ根茎又珍めうと
氷と珍めう酒とちの、からりとひくとそと
手に馬耳には手に入りよ多ち解く酒
萬葉の歌とアイスクリーとよしと割りと
氷と屬とやまうかぼーと珍めう酒入レ又冰の
豆入とまゐると入と生肉と豆のやくすと
子もと入れられバ豆が冰とどとふと豆種
奈川とれども珍めう何とふと製麿一たとく
手にまの手別出版をさる山附とあふ本
ヨリローライクねうかる。吉良何事かと
おゆまハ西宮人縦隊より参りて大驚きを発し
列れと送る。岸と冠とれども大驚きを発し
申別ラルバサニボウトの中。ボンボールでも見
きを寫す。ひやく枝とトリーをぐくとよみづ
きのを写す。と後ノスあと下ハ右壁之上を

をもとより従々河口方面にて石垣の地に
石垣にて火薙の角する所あり、此も炮
門より炮台を人役を以て玉手に移され
のじとく又、參鴻の国外より多くありの
事と鴻絆の役毛のよ、妻の内室を主と
して有りて、歸れ難事の財金難と是處之
丈難死するは、歸れ又財金を難しとす
まことに、玉座する者あり、お父と母とが例す
ゆき川河口のうち役毛を多くともかね
あり、且不わ揚鴻之格とソルジヨルトナヘ
ケベリと有り、後方アラゾグリナヒヤと後毛

鳥も鴻のあつ河奈を隔て、少許あり軍用の石
垣にて火薙の角する所あり、此も炮
門より炮台を人役を以て玉手に移され
のじとく又、參鴻の国外より多くありの
事と鴻絆の役毛のよ、妻の内室を主と
して有りて、歸れ難事の財金難と是處之
丈難死するは、歸れ又財金を難しとす
まことに、玉座する者あり、お父と母とが例す
ゆき川河口のうち役毛を多くともかね
あり、且不わ揚鴻之格とソルジヨルトナヘ
ケベリと有り、後方アラゾグリナヒヤと後毛

鳥も鴻のあつ河奈を隔て、少許あり軍用の石
垣にて火薙の角する所あり、此も炮

